

第19回オリックス・バファローズCUP2022少年少女軟式野球大阪大会ルール

■ 新型コロナウイルス感染防止対策を、各チームにて徹底して行う。

ア、チーム責任者、指導者、控え選手およびランナーズコーチ、マネージャー(記録員)、給水補助員は必ずマスク着用をすること。(ネックウォーマーでの代用は不可)

※酷暑での試合開催時、ランナーズコーチ、審判員のマスク着用については本部の指示に従うものとする。

イ、試合終了後、各チームにてベンチ内の消毒作業を行う。

ウ、その他、主催者が定める新型コロナウイルス感染症防止対策を遵守すること。

1、大阪大会参加資格

参加出来る選手は、事前に出場選手として登録された3・4・5・6年生(ただし、3年生を登録する場合は、各チームの責任において出場させるものとする)に限られる。

1チーム選手登録は、10名以上20名まで。

さらに、部員不足により単独チームでの参加ができない場合は、合同チームも認めることとするが、

ア、合同チームは部員不足チーム同士のチームであること(部員余剰チームから部員不足チームへの補充合同チームは認めない)。

イ、所属団体と大会事務局へ合同チームでの出場を申請すること。

ウ、戦力不足による合同チームは認めない(発覚した場合は、棄権となる)。

エ、合同チームは、特別規約として所属チームユニホーム一式の着用を認めるが、背番号の重複は認めない。

上記条件を満たした上で、本大会役員会で審査し、承認されれば特例措置として大会参加が認められる。

2、この大会は、該当年度の「公認野球規則」、「(公財)全日本軟式野球連盟競技者必携/学童野球に関する事項」及び

下記の細則により試合を行なう。グラウンド特別ルールがあるときは、試合開始前に審判員からチームに説明する。

ア、試合は原則6回戦とするが、1時間25分を過ぎて新しいイニングに入らない。時間制を採用する。

イ、試合は得点差によるコールドゲームを採用する。3回以降10点差、5回以降7点差を採用。

ウ、降雨その他の事由により試合続行が不可能な場合、4回終了をもって試合成立とし、最終均等回の総得点をもって勝敗を決する。

エ、決められた回数、時間が経過して同点の場合は、抽選により勝敗を決する。

オ、シートノックは、ブロック大会では行なわず、決勝戦のみ行なう(5分間)。ただし、プロ野球公式戦が延長等で長引いた場合、行わない場合もある。

カ、上記取り決めに関わらず、当日の球場使用許可時間に制限がある場合等は、大会本部又は担当役員の判断で試合回数等の変更をすることができる。

キ、投球数制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、1日70球までとする。試合中に70球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。

3、ベンチは、組み合わせの若い番号を一塁側とする。

4、選手全員の集合は試合予定時間1時間前とする。現地に到着したチーム代表者は本部へその旨を報告し、本部で用意した打順表4通を受け取るものとする。

5、前の試合が予定時間よりも早く終了したときは時間を繰り上げて次の試合を開始することがある。

6、試合を行うチームの監督と主将、保護者の代表者は、当日出場予定の選手全員の氏名(フルネーム、ふりがな入り)を記載した打順表4通と健康チェックシート(チーム関係者用、保護者用)を、試合開始予定時間30分前に本部へ提出すること。その際、攻守の決定を行う。

7、小雨の場合でも、日程の都合上または球場が使用可能な状態である場合は試合を行う。その際、チームは異議を申し出ることとは出来ない。

8、試合中ダッグアウトに入れる人員は、チーム責任者1名、マネージャー1名、登録されたユニホーム着用の

監督、コーチ(2名以内)の合計5名と、登録されたユニホーム着用の選手10名以上20名以内とする。

背番号は、監督30番、コーチ29番、28番、主将を10番とし、選手は0番から99番とする。

また、監督・コーチと見分けるため、チーム代表者、マネージャー、給水補助員のユニホーム(ユニホームパンツのみ含む)の着用は認めない。

9、大会期間中の追加選手登録については、新入団や転校等などのやむを得ない場合に限る。その際、事務局へ連絡し、追加選手登録の申請を行う。また、決勝トーナメントについては、再度選手20名の登録を行う。

10、監督・コーチ・選手が試合に臨むときは、必ず統一したチームのユニホームを着用しなければならない。

当該違反者は、その試合に出場できない。(ベンチ入りもできない)

ただし、本大会役員会にて承認を得た合同チームについては、特別規約として、1-エを適用する。

11、選手のスパイクシューズは、金具のついたスパイクは使用することはできない。

12、投手は、変化球を投ずることを固く禁止する。万一変化球を投げたときはペナルティを課す。(＊補足1)

13、バットは、全軟連公認以外の物の使用を禁ずる(JSBBの記号あり)。

14、大会使用 J 号球(ダイワマルエス株式会社製、内外ゴム株式会社製、ナガセケンコー株式会社製)は主催者で用意し、各運営協力団体指定のものとする。万一、試合中場外に出た場合は、攻撃側で即座に探索する。

15、選手の不正登録など不祥事があった場合は没収試合として処理し、チームは直ちに失格とする。

16、打者、走者、ベースコーチ、次打者は必ずヘルメット(両側イヤフラップ付)を着用すること(最低7個用意)。

17、捕手は、必ず公認マスク、レガーズ、プロテクター、捕手用ヘルメット、ファールカップを着用すること。

ファールカップを着用していない捕手は、試合への出場を認めない。

また、攻守交替時の準備投球を受ける捕手もマスク、プロテクター、レガーズ、捕手用ヘルメットを着用することが望ましいが、最低限公認マスク(スロートガード付)、捕手用ヘルメットは必ず着用すること。

18、監督・コーチは次の場合を除きベンチから出てはいけない。

ア、選手交代又は抗議のためにタイムを求め、そのタイムが審判員に認められた場合。

イ、審判員から招致を受けた場合。

なお、試合中の抗議は監督及び当該プレーヤーに限る。

19、グラウンドで発生した負傷は、各チームで応急処置をする他、主催者は一切その責を負わない。

参加チームは、チーム単位で傷害保険に必ず加入するものとする。

20、チームのゴミは収集し各自が必ず持ち帰ること。グラウンド及び球場周辺を汚さないこと。

21、代表者はチームの引率その他すべてのことについて責任を持ち、十分な注意を払うこと。

主催者はその責任を持たない。

22、雨天の際の可否判断は当日の午前7時00分に決定する。それ以前の間合わせには応じない。

万一会場まで遠距離の場合は、途中まで移動しながら会場担当者まで電話すること(各チーム1名)。

23、応援時の鳴り物等は、各グラウンドルールに従う。

24、熱中症予防の為、給水補助員2名をベンチ内に配置することを認める。ただし、指導者の給水補助員としてのベンチ入りは不可とする。その際は、本部指定の名札をかけ、試合への指示等は行わないものとする

＊補足1(ペナルティについて)

審判員が変化球を故意に投じていると判断した時、

1回目、その投球に「ボール」を宣告し、当該チーム監督ならびに投手へ注意勧告。

2回目、投手交代(当該投手は、その試合投手以外のポジションで出場することができる。)